

生 活 科

1 教科の目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

(知識及び技能の基礎)

(2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等の基礎)

(3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

(学びに向かう力、人間性等)

教科の目標は大きく分けて二つの要素で構成されている。上段の「趣旨」と下段の「育成を目指す資質・能力」である。上段の「趣旨」には、生活科の前提となる特質、生活科固有の見方・考え方、生活科における究極的な児童の姿が示されている。下段に示された育成を目指す資質・能力は、(1)「知識及び技能の基礎」、(2)「思考力、判断力、表現力等の基礎」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つから成る。

趣旨には「見方・考え方を生かし」とあり、他教科の「見方・考え方を働かせ」という表現と異なる。これは、生活科が幼児教育とのつながりを意識していることの表れであると捉える。また、(1)と(2)に示した資質・能力の末尾に「の基礎」とあるのは、幼児期の学びの特性を踏まえ、育成を目指す三つの資質・能力を截然と分けることができないことによる。

生活科の目指すところは、教科目標の特定部分ではなく、全体において示されている。自立し生活を豊かにしていくための資質・能力は、一つ一つの単元や授業などにおいて、総合的に育成されていくものである。以下に、生活科の教育目標の構成についてまとめたものを図示する。

生活科の教科目標の構成

【趣旨】

具体的な活動や体験を通して、

- 見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして対象に直接働きかける学習活動
- 言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法によって表現する学習活動
- 言葉などによる振り返りや伝え合いの場を適切に設定(言語能力)

身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、

- 身近な生活に関わる見方は、身近な生活を捉える視点であり、身近な生活における人々、社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかという視点
- 身近な生活に関わる考え方は、自分の生活において思いや願いを実現していくという学習過程にあり、自分自身や自分の生活について考えていくこと

自立し生活を豊かにしていく

- 学習上の自立
 - ・自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる学習活動を自ら進んで行うことができる。
 - ・自分の思いや考えなどを適切な方法で表現できる。
- 生活上の自立
 - ・生活上必要な習慣や技能を身に付ける。
 - ・身近な人々、社会及び自然と適切に関わることができる。
 - ・自らよりよい生活を創り出していく。
- 精神的な自立
 - ・自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつことにより、現在及び将来における自分自身の在り方を求めていくことができる。

【育成を目指す資質・能力】

- (1) 「知識及び技能の基礎」
 - ・生活の中で豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになったりするか。
- (2) 「思考力、判断力、表現力等の基礎」
 - ・生活の中で、気付いたこと、できるようになったことを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか。
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」
 - ・どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか。

2 学習指導要領の特色

(1) 基本方針

生活科は、児童の生活圏を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動や体験を重視し、具体的な活動や体験の中で様々な気づきを得て、自立への基礎を養うことをねらいにしてきた。平成20年改訂の学習指導要領では、活動や体験を一層重視するとともに、気づきの質を高めること、幼児期の教育との連携を図ることなどについて充実を図った。その成果として、言葉と体験を重視した改訂の趣旨がおおむね反映された。しかし、以下の点においてはさらなる充実を図ることが期待されている。

- ・活動や体験を行うことで低学年らしい思考や認識を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動を重視すること。具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるか十分に検討する必要がある。
- ・幼児期の教育において育成された資質・能力を存分に発揮し、各教科等で期待される資質・能力を育成する低学年教育として滑らかに連続、発展させること。幼児期に育成された資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にし、そこでの生活科の役割を考える必要がある。
- ・幼児期の教育との連携や接続を意識したスタートカリキュラムについて、生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取組とすること。スタートカリキュラムの具体的な姿を明らかにするとともに、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、学校全体で取り組むスタートカリキュラムとする必要がある。
- ・社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする中学年の各教科等への接続を明確にすること。単に中学年の学習内容の前倒しにならないよう留意しつつ、育成を目指す資質・能力や「見方・考え方」のつながりを検討することが必要である。

(2) 具体的事項

①基本的な考え方

- ・生活科においては、言葉と体験を重視した前回の改訂の上に、幼児期の教育とのつながりや小学校低学年における各教科等における学習との関係性、中学年以降の学習とのつながりも踏まえ、具体的な活動や体験を通して育成する資質・能力（特に「思考力、判断力、表現力等」）が具体的にできるよう見直すこととした。

②目標の改善

- ・具体的な活動や体験を通じて、「身近な生活に関する見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを明確化した。

③内容構成の改善

- ・学習内容を「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」、「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」、「自分自身の生活や成長に関する内容」の三つに整理した。

④学習内容、学習指導の改善・充実

- ・具体的な活動や体験を通じて、どのような「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指すのが具体的にできるよう、各内容項目を見直した。
- ・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気づきを確かなものとしたり、新たな気づきを得たりするようにするため、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考えたり、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行ったりする活動を重視することとした。
- ・動物の飼育や植物の栽培などの活動は2学年間にわたって取り扱い、引き続き重視することとした。
- ・各教科等との関連を積極的に図り、低学年教育全体の充実を図り、中学年以降の教育に円滑に移行することを明示した。特に、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫（スタートカリキュラム）を行うことを明示した。

なお、今回の改訂では、低学年の各教科等（国語科、算数科、音楽科、図画工作科、体育科、特別活動）にも幼児期との接続及び入学当初における生活科を中心としたスタートカリキュラムについての規定を明記している。